

第二章

プロ21年のキャリアから語る

もっと攻めて、 強く・上手くなる!

「みんな、もっと攻めるべきですよ」

青木プロのこの言葉から取材はスタート。

果たして、攻守を考える戦略の中で、

よりオフェンシブであることの価値とは。

よりシュート力を高めるためのポイントと合わせて伺った。

取材協力／ポイント国立旭通り店(東京都国立市)

取材・写真・文／北村誠人



「関東支部に移籍し、プロアマ問わず東京のプレイヤーと接する機会が増えてからは、『みんなもっと攻めようよ』ってより思うようになりましたね」。

2016年に香川から関東へと拠点を移し、活躍を続けている青木プロはそう語る。青木プロによると、「偏見かもしれないですけど、西よりも東のプレイヤーの方が手堅い選択をする傾向があると感じます」とのこと。その理由として、東京では初中級者向けでも大きなトーナメントがあるので、「試合に勝つためのビリヤード」への意識が強いのではないかと指摘する。

どんな対戦でもデフエンスを全くせずには勝つことはできないので、勝ちを求めるのならばセーフティも習得しなくてはならない。だが、初中級者くらいだとプレイヤーによっては入りが非常に強いのにセーフティが全く不得意、ということも少なくない。だからこそセーフティ力の差が勝敗を分け、試合への意識が強くなるにつれて自然と守備的なショットが増えるのではないだろうか。

「やっぱり最終的にはボールを入れないと絶対に得点できないですし、特に格上のプレイヤーを相手にした場合、守り合いになればなかなか勝機は訪れません。もっと上



攻めへの意識を高め、
より強いプレイヤーになる



手くならう、勝つことがない相手に勝てるようにならうと思うなら、やっぱり攻めないといけないと僕は思いますよ」。

もちろん、守りも重要なスキルだが、目の前の結果を求めすぎて攻めをおろそかにしては、本当の意味での上達は望めないのだ。攻めへの意識を高め、もっとボールを入れられるプレイヤーになるための指針を示していこう。



Profile

青木 亮二

あおき・りょうじ

1977年3月4日生まれ JPBA32期生

香川からやってきた「讃岐のライオン」。気迫溢れるアグレッシブなプレーぶりで、ビリヤードファンからの人気も高いベテラントッププロ。『ポイント国立旭通り店』、『キャノンボール鎌ヶ谷店』(千葉)、『BanBan坂戸駅前店』(埼玉)、『BanBan八王子店』(東京)を中心にレッスンを 행っており、経験に裏打ちされた的確なアドバイスで多くのプレイヤーをレベルアップに導いている。

攻めがもたらす
メリット

#01

攻撃は自分をより高め、
相手を圧すセレクトだ！

Ryoji Aoki

1st Special Feature

Offense or Defense

プロ直伝、攻めと守りの掟！

ショットセレクトにおいて、青木プロはコンディションやスコア状況、対戦相手にもよるという前置きはあがあるが「成功率が50%あれば、攻めます」と話す。多くのプレイヤーにとって攻めるか守るか、セレクトに迷う成功率というのが「50〜70%」のショット。青木プロはかなり攻めのショットを選ぶ割合が高いという訳だ。

ここで言う「攻め」とは、必ずしもシュートに行くことを指す訳ではなく、相手がファウルする可能性もある効果的なセー

フティなどのことも含む。「成功しそうな範囲で選んで、とりあえず手球を離す・隠す」といった消極的なショットの対義、とも言え換えられる。こうした、よりオフense的なショットセレクトをすることで生まれるメリットとは何だろうか。

「一番は自分自身が気分良くプレーできることです。それによつて気持ちも乗って、ショットも良くなりますよ」。

ビリヤードは、どんなレベルであつてもメンタルがプレーに影響を及ぼすゲームだ。やはり、どんな球に対しても「入れるぞ」と思つて撞くプレーは気持ちの上でポジティブになりやすく、ショットに良い影響をもたらしてくれる。

「ショットセレクトから自分を乗せていくことで、成功率50%のはずが、60%になるかもしれない」というのが攻めの最大のメリットです」。

対戦相手からしても攻めをセレクトすることが多いプレイヤーからはプレッシャーを感じやすい。

「難しい配置で攻めてくることが多いプレイヤーには、相手も『半端な球は回せないな』と思うはず。それだけで、相手にとって嫌です。すね」。

青木プロ自身、プロキャリアの中で守り

に寄せたセレクトをすることが多かった時期もあったそうだが、それを変えた頃からぐつと結果も付いてくるようになったそう。その中で「成績が出せる時、相手にあまり良いプレーをさせないでいることが多い」とも感じている。

試合中、相手の心理状態というのはなかなか気付きにくいものだ。しかし、確実に1つ1つの選択によつてダメージを相手に対して与えることができる。ビリヤードのプレーは自分1人で完結する「自分との戦い」のゲームであるとは言え、対人スポーツでもあることもまた間違いない。ショットセレクトの積み重ねで、試合の展開を有利に持つていくことは可能なのだ。

加えて青木プロは「それに、やつぱり攻めていった方が観ている人も楽しいですよ」と話す。見るからに難しい縦バンクやロングショットを華麗に決めていくプレイヤーがより注目を集めるのは確かだ。消極的なセーフティの応酬よりも確実に魅力的なゲームになるだろう。

これは、常に観客のいる場所でプレーするプロに限らず、アマチュアのゲームにも当てはめることもできる。ハウストーナメントであつても、試合待ちのプレイヤーに「すごいな」と思わせたら気分も良いし、対戦相手にはプレッシャーになり、2回戦以降の相手の印象も変わるだろう。

「攻める」ということは、単なる「守る」の対義となるショットセレクトという意味だけでなく、試合でより強くあるための姿勢も含めた多面的な意味をもつ言葉なのだ。



Ryoji Aoki

1st Special Feature

Offense or Defense

プロ直伝、攻めと守りの掟!

攻め気高めの
自分であるため

#02

テンポの良いプレーが 強気な自分を作る

攻めるべきと思っても、プレイヤーの置かれた状況やテーブルコンディション、その時の心理状態によって判断は変わってくることもあるだろう。しかし、消極的なセレクトが増えると、その次のショットでも『行くぞ!』と思えず、また普段なら攻めることができるはずのショットを守ってしまう、というような状況に陥ってしまうことも少なくない。

たらい良いだろうか。青木プロは「1球1球を撞くまでのスピードを上げることが意識すると良い」と話す。

早いプレーを心掛けることによつて、より身体がよく動くようになり、「テンポの良いプレーは自分自身の気持ちも乗ってくる」のだそう。

「それと、難易度が高めで悩ましいショットを攻めて成功させたといいます。それを1分掛けて撞いたら普通のナイスショットですけど、15秒で撞いたとしたらスーパースhotsに見えるんです。その方が、相手へのプレッシャーの掛かり方も大きいです」。

もちろん、普段練習しているコンディションと全く違うために慎重にならざるを得ない時は必ずあるし、色々な可能性をシミュレーションしてセレクトを決めなくてはいけない時もあるだろう。あるいは考慮が足りないまま無茶な攻め方をしてやはり勝機を逃す。

そして試合になつて急にテンポを上げてもミスの可能性を広げてしまうこともあるので、プレースピードを早くするためには日頃の練習での心掛けが必要になつてくる。しかし、テンポの良いプレーを習得できれば、確実に「より攻める」自分作りに繋がるのだ。

格上でも、格下でも、『攻めろ!』

#03

『攻めない』消極的な プレーがもたらすこと

攻めの姿勢を欠いたセレクトが増えてしまうと、相手のチャンスを広げるだけの結果になることは決して少なくない。

「根本的にですが、セーフティをするということは、『自分が取り切ることを諦めて順番を渡す』プレーですから、相手次第で何が起ころかわからない怖さもあるんです。僕がアマチュア選手との対戦で負けてしまふのは、『外せば確実に取り切られる』と感じる状況で、セーフで多少難しめの配置を相手に撞かせればまだ自分が有利で自分にもう一度チャンスが来ると期待したショットをしてしまった時ですね」。

やはり、『とりあえずセーフティ』のような消極的なショットは自分自身の気持ちも落とすし、対戦相手がそれをチャンスと捉えて見事に決めれば、その後の展開にも大きく影響する。自分が相手よりも上手にいたいと思つたとしても、攻撃的でない選択肢はその実力差をひっくり返す結果をもたらしつつもあるのだ。

逆に、相手の方が上手でもともと勝率が低そうな場合だとどうだろうか。

「それはやはり、難しい球が回ってきたからセーフティ、なんてやって守り合いにでもなつたら、常に相手は自分より厳しいセーフティをしてくる可能性が高い訳ですから、

ら、じり貧になりますよ。僕も若手のころ、例えば高橋邦彦プロや利川章雲プロなどとの対戦の時は、『セーフティしてもきつと、もつとキツイのが返ってくるはずだから、攻めるしかない』と思わせられて、積極的になりました。そうすると、偶然でも良いショットがいくつか決まり出せば格上相手でも一気に勝てることもありまふ」。

やはり、特に格上とのゲームなら消極的であることは勝率を下げるセレクトになり得ることを忘れてはいけないう。





攻め力向上術



「こうすれば入る！」 自分なりの鉄則を作る

ゲームの中で攻めの姿勢を貫くなら、やはり難球でもこなしていける、「攻め力」もより高めていきたい。特に確率が低そうなショットを撞く時のコツを聞いた。

入られる『という難球に向かう時の自分なりのルーティンを作ることですね』。それぞれの配置ごとの「自分なりの攻略法」を持つ、ということだ。例えば青木プロの場合、難球を撞く時全般で『手球だけを見る』ことを心掛けると成功率が上がるそうだ。

こういった「土手撞きならこう」、「ロングのカットならこう」、といったオリジナルのコツを見付けるのだという。場合によっては青木プロにとつての手球への注視と同じように、どのショットにも共通したルーティンでも良い。

「難しいと感じる球つていうのは、外した経験が多い配置とも言え換えられます。そういう配置に向かうと、脳が自然と失敗した時のことを思い出して、身体が嫌がるんです。だから、無駄な力が入ったり、ヘッドアップしたりしてミスが多くなります」。

そういった『難しい配置だ』と思っている状態から頭をすっぱり切り替えるためにルーティン

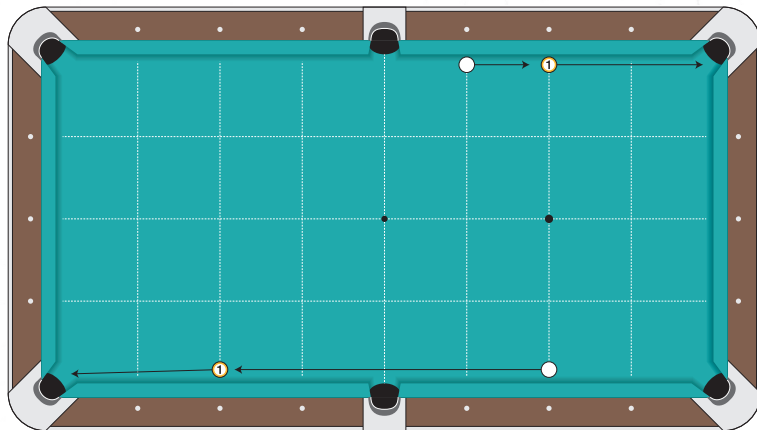
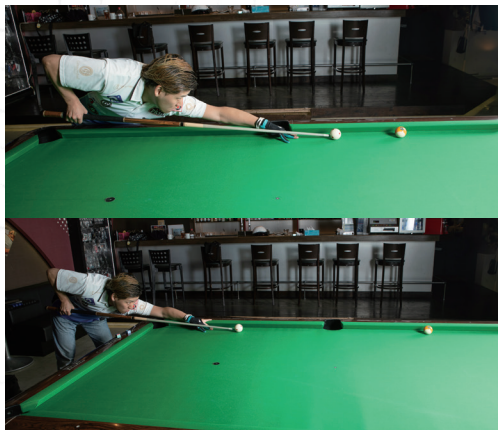
が有効になるという訳だ。「試合終わったら焼き肉行こうかな」とか、ビリヤードと関係ないことを考えるのだから効果があります(笑)」とも青木プロは話す。

また、「ミスをする時というのは自分の良いショットが出せていないことがほとんどです」と指摘する。嫌なショットでヘッドアップするのもそうだが、本来できるはずの良い撞き方、ベストなストロークができずにショットを外すのはもったいないことだ。

「イージーな球を撞く時と同じように撞けば良いところを、『嫌だな』と思って構えに入り、結果的にそれができずに外してしまつたのなら、僕は技術ではなくメンタルの問題で外しているんだと考えます。自信を持って、良いストロークで撞いて、それでも外した時に初めて『技術がなくて外した』になると思います」。

例えば下記配置を撞いてみてほしい。同じような撞点やスピード、撞き方でも厚みを大きく外さなければ、入れられるはずの配置だ。厳密に言えば手球が遠くなっている分だけより正確に撞き出さなくてはいけないし、身体とテーブルの位置関係も違うのでフォームも多少変わる。

それでも、「イージーを入れる時と同じ、今できる最高のストロークで撞けているか」という視点で自分を見てほしい。それができていないなら、できるようにするための自分なりの遠い真つ直ぐを撞くルーティンを見付ける必要があるということだ。そういった1ポイントを数多く見付けることで、攻め力は高まっていく。





そして、最後により攻撃力を高めるために必要な日々の練習に関するポイントについて伺った。

「まず1つは先ほど話した『嫌な球を入れるルーティン』をちよつとずつ見付けていくように練習をすることですね。」

繰り返しになるが、それぞれの配置で入れるコツ・良いストロークができるよう

1シュートも
1日の練習から!

#05

攻め力を高める日々の テーブルへの向かい方

「どんな球でもまずは攻めてみましょう！ やってみて、どうしてもダメだと思ったら守れば良いです。でも、攻めたことがないのに守っているのが一番良くないと思います。『これは守り』と決めてかからず、攻めてみた先に、試合でさらに強くなる道が拓けてきます！」

「どんな球でもまずは攻めてみましょう！ やってみて、どうしてもダメだと思ったら守れば良いです。でも、攻めたことがないのに守っているのが一番良くないと思います。『これは守り』と決めてかからず、攻めてみた先に、試合でさらに強くなる道が拓けてきます！」

に在るためのコツを1つずつ編み出し、積み重ねることがそのままシュート力を高めることにも繋がる。

「あとは、『ジャパン』や『ゴークュー』をやりましょう！ あんまりやったことがない、という人もいると思います。ですが、こういったセーフティなしのルールでやることで、今まで『絶対入らない』と思つて条件反射で守つていたような配置も、トライすると実は結構入れられるということに気付くことがあります。」

青木プロが実践する

✓ 攻めを鍛える練習メニュー

for C Class

Xエリア内で毎回フリーボールとし、1球ずつコーナーへポケット

for B Class

Xエリア内フリーボールから、順不同でコーナーへポケット

for A Class

Xエリア内フリーボールから、①～⑮の順番でコーナーへポケット



この配置は青木プロが実際に練習している配置だという。どんなレベルでも上記のようにやり方をかえればそれぞれ練習になるはずだ。クリアしたなら、さらに1ポイント上短クッション側に的球のラインをずらしても良い。

青木プロにボールを入れること全般のコツについて伺うと「先球がポケットに入りやすい『お得な力加減』と、入りやすい先球の回転を知ることです」とのこと。先球のスピードと回転。この2つを意識して練習するべし。

